

派遣現職教員メールマガジン

2007/10/2 第2号



19年度隊の皆さん、任地にはなじみませんか?
18年度隊の皆さん、そろそろ焦っていませんか?

contents

◇◆◇	はじめに	◇◆◇
◇◆◇	文部科学省からお知らせ	◇◆◇
◇◆◇	JICAからお知らせ	◇◆◇
◇◆◇	「JICAボランティア帰国報告会」より	◇◆◇
◇◆◇	「高校生のための地球市民講座」より	◇◆◇
◇◆◇	出版案内	◇◆◇

◇◆◇ はじめに ◇◆◇

ここ筑波では先週の猛暑から一転して寒くなり
小雨が続いていましたが、本日午後になって薄日がさすという
秋の変わりやすい天気が続いています。

さてメールマガジンの第2号をお届けします。
今回はお知らせのほかに、帰国後の還元活動に関する記事を
載せています。今回は国内だけの記事になりましたが、
今後はできるだけ幅広く取材を行っていくつもりです。

◇◆◇ 文部科学省からお知らせ ◇◆◇

①以前お知らせいたしましたが、平成19年10月6日(土)、7(日)に開催される
国際協カイベント『グローバルフェスタ JAPAN 2007』

に文部科学省が出展します。

「現職教員特別参加制度」に関しては、以下の内容で出展を予定しておりますので、
お時間のある方は是非ご来場下さい。

日時：2007年10月6日(土)・7日(日) 10:00~17:00

場所：日比谷公園(東京)

会場マップ：http://www.gfjapan.com/2007/web/02_place/map.html

文部科学省のテント番号は「G-02」です。

出展内容

- パネル展示や映像等による現職教員特別参加制度の紹介
- 帰国隊員による現地での活動や帰国後の活動についての紹介
 - ・「帰国後のベトナムの小学生と日本の小学生との交流活動について」
(6日午後)
 - ・「フィジーでの教育事情、情操教育分野の活動や現地の子供達との
ふれあいについて」
(7日午後)
- その他
『国際協カイニシアティブ事業』の紹介
(教育、研究分野で培われた日本の知識や経験を
国際協カに活かすため文部科学省が実施)

②『ワークショップ開催のお知らせ』

帰国隊員の国際理解教育に関するワークショップが開催されます。

セミナー名：「国際協カイニシアティブ」教育協カ拠点形成事業ワークショップ

日時：平成19年10月13日（土）
場所：筑波大学附属小学校（東京）

詳細についてはこちら

↓
<http://www.scp.mext.go.jp/seminar/>

◆◆◆ JICAからお知らせ ◆◆◆

今年6月に青年海外協力隊員が3万人を超えたのを記念して
シンポジウム「国際協力を日本の文化にー国際ボランティアの意義と可能性ー」
が9月25日に開催されました。シンポジウムの様子は下記のウェブサイトでご覧いただけます。

http://www.jica.go.jp/topics/2007/20070925_01.html

◆◆◆ 「JICAボランティア帰国報告会」より ◆◆◆

今年3月に帰国された野原俊之先生が「JICAボランティア帰国報告会」
（平成19年9月29日、筑波インフォメーションセンター）で活動報告をされました。
報告会の後に帰国後の様子をお聞きしました。

（帰国後の海外経験の還元について）

帰国して自分の勤務校に戻ることができてやりやすかったが、
日々の公務に追われて自分の経験を新しくプランを立てて活動していく
までの余裕がなかった。今年は体育関係の主任にもなって忙しい。

私個人の考えですが、帰国した隊員が1年間を通してどういう流れで
（国際交流活動に）協力できるかプランのたたき台みたいなものを
作っておけば帰国した隊員も自分の経験を生かしやすいかなと思います。

それから向こうにいる方が時間があるんでその段階で先に手を打つのが
よかったのかなと思う。帰ってきてから、じゃあ何をしようか考えるのは
非常に厳しいと思うので向こうにいながら少しづつ準備を整えていって活動を
進めていくという前準備が必要かなと思います。

（野原先生へのインタビューであらためて学校現場の忙しさを認識したのですが、
野原先生から示唆されました帰国後のガイドライン作りについては
今後の課題として受け止めたいと思います。（鎌田）

◆◆◆ 「高校生のための地球市民講座」より ◆◆◆

「高校生のための地球市民講座」（平成19年9月21日土曜、JICA筑波センター）の
国際交流プログラムに茨城県内の公立・私立高校の生徒（16校114名）が参加しました。

交流プログラム：

第1部：国際協力経験者によるトーク（JICA筑波国際センター）、
ワークショップ「もしも世界が100人の村だったら」（財団法人茨城県国際交流協会）

第2部：JICA研修員との交流会（茨城県高等学校国際教育研究協議会）

参加した高校生の活動の様子は下のホームページを参照してください。
→ (http://www.ia-ibaraki.or.jp/kokusai/event/kouza_high-school/index.html)

今回派遣現職教員の参加はなかったのですが
茨城県高等学校国際教育研究協議会事務局長の
豊島卓先生から高校生の国際交流についてお聞きしました。

（派遣現職教員に対する期待は？）

高校の総合的な学習の時間に派遣現職教員に参加してもらったり、
経験に基づく意見を言ってほしい。

（高校生の国際交流の特徴は？）

高校生は、講座で経験したことを学校に戻ってまわりの生徒に
伝えてくれる。そういう効果が期待できる。

（生徒と外国人研修員の交流について）

メルマガ10月2日号原稿.txt
英語で積極的に話そうとするのはむしろ成績中位校の生徒の方に多い。

(派遣現職教員と研究協議会の連携について)
派遣現職教員に協議会の理事をやって経験を生かして欲しいが、
積極的な先生ほどいろいろな行事に呼ばれたり活動に参加していて
忙しい。今はそういう計画はないが将来そういう方向に進むといい。

(今回高校生の国際理解活動を見学することで、
派遣現職教員の方々の帰国後の海外経験の還元活動にも
教育段階に応じた配慮や取組、学校種ごとの指導の工夫が
必要だと感じました。(鎌田))

* 茨城県高等学校国際教育研究協議会については次号で紹介する予定です。

◆◆◆ 出版案内 ◆◆◆

算数教育の参考図書が出版されましたのでお知らせします。

書名『Japanese Lesson Study in MATHEMATICS - Its Impact,
Diversity and Potential for Educational Improvement』(2007, World Scientific)

←『図でみる日本の算数・数学授業研究』(2005, 明治図書)の英訳版です。

“日本の教育者のオリジナルな視点に立って”、日本の算数授業研究、
授業研究のタイプと方法、研究の動向、多様な授業研究を解説しています。
実際に授業を行う参考や日本の教育について紹介する時に利用できると思います。

◆◆◆ 担当者からのお願い ◆◆◆

引き続き、海外・国内活動紹介地図作成のための資料をお待ちしています。

18年度1次隊・19年度1次隊の先生方 → 活動の様子や環境が分かる写真1枚+文章(400字)
任地の緯度と経度

14年度1次隊～17年度1次隊の先生方 → 海外経験の還元活動写真1枚+文章(400字)

* 鎌田 亮一 (Ryoichi KAMADA) *
* kamada@criced.tsukuba.ac.jp *
* (メールマガジン担当) *
* 筑波大学教育開発国際協力研究センター *
* 〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 *
* Tel/Fax 029-853-6573 *
